

まつ お ば しょう
松尾芭蕉

こ ばやし いっ さ
小林一茶

まさ おか し き
正岡子規

の

足跡を探そう! ぐるっとまち歩き!

松尾芭蕉が南千住で矢立初めの句を詠んだことから、あらかわは奥の細道ゆかりの地となりました。子ども俳句相撲大会などのイベントが毎年行われ、子どもから大人まで誰もが気軽に俳句を楽しんでいます。まちには有名な俳人たちの足跡がたくさんあります!

こんなところに句碑があったんだ!



大内柚葉さん

小林一茶は猫と子ども好き!



本名は小林弥太郎。
生涯で2万句以上の作品を作り、
大好きな猫や子どもについての句をたくさん
詠んだよ。本行寺の住職一瓢さんを訪ねて
何度も句会に参加したんだ。

小林一茶句碑

陽炎や道灌どの物見塚

ここからの眺めがすばらしく、特に月景色が美しいので「月見寺」とも呼ばれました。小林一茶をはじめ、多くの俳人が訪れた場所です。

本行寺

羽二重団子、おいしそうだね。



須釜颯也くん

羽二重団子本店



正岡子規句碑
芋坂も団子も月のゆかりかな

台東区根岸に住んでいた正岡子規は、ここに好物の団子を食べに立ち寄りしました。お店の前に句碑があります。



本名は正岡常規。

野球が大好きで
殿堂入りもしているぞ!
食べるのが大好きで
大好物は菓子パンだ。
仲間とわいわい騒ぐことも
大好きだ。

野球好きの正岡子規!



多くの俳人が俳句を詠んだあらかわには、色々な場所に俳句を刻んだ句碑が建てられています。今回は、平成29年度「奥の細道矢立初めの地」子ども俳句相撲大会の優勝者を含む、俳句が大好きなジュニア記者が、3つの句碑を巡りながらあらかわを散策! 俳人たちの足跡取材することで俳句に込められた意味や思いを学び、俳句を詠む楽しさを新たに発見しました。

第三瑞光小学校6年生のジュニア記者と、荒川ふるさと文化館の学芸員・野尻かおるさん

岡田響介くん



南千住は松尾芭蕉ゆかりの多いね。

取材を終えて一句

松尾芭蕉や俳句の歴史を学んだジュニア記者に、春の句を詠んでもらったよ! (敬称略)

気になる鳴き声聞けぬ池がえる	須釜颯也	河川敷一人ぼっちの遅桜	岡田響介	おたましやくしすくつた指をすりぬける	土屋かのん	潮干狩り寄り添う貝が顔を出す	大内柚葉
----------------	------	-------------	------	--------------------	-------	----------------	------



素盞雄神社



奥の細道矢立初めの句碑

行く春や鳥啼き魚の目は泪

松尾芭蕉が旅の初めに詠んだ有名な句と『おくのほそ道』の一節と、芭蕉像が刻まれています。



本名は松尾宗房。
「おくのほそ道」では、約5ヶ月で約600里(約2,400km)を歩いたんだ。
木屐の精神の持ち主。

不撓不屈の松尾芭蕉!



俳句の歴史が分かっておもしろい!

荒川ふるさと文化館

奥の細道や句碑について
学芸員の野尻さんに聞きました

今から330年前の3月に芭蕉さんは千住から奥の細道の旅に出発しました。芭蕉さんが巡った町々には、必ずといっていいほど句碑があり、大切にされています。区内には芭蕉さんの他、西山宗因、山崎北華、小林一茶、正岡子規、金子兜太などの有名な俳人の句碑があります。芭蕉さんたちが見た景色や気持ちを想像しながら、句碑や俳句ゆかりの地を見学しましょう。



▲今年は奥の細道旅立ち330周年。野尻さんが句碑について分かりやすく説明してくれました



土屋かのんさん

荒川区俳句のまち宣言

豊かな俳句の心を未来に伝える
俳句のまち あらかわ

俳句の魅力を次につなぐ架け橋として、子どもから大人まで俳句文化のすそ野を広げ、豊かな俳句の心を未来に伝えることを誓い、平成27年3月に「俳句のまち あらかわ」を宣言しました。

詳しくはこちら

俳句のまちあらかわ

